

令和3年度 第1回総合教育会議 会議録

日時：令和3年11月16日(火) 午後12時30分～午後2時15分

場所：南箕輪小学校 会議室

全体進行 清水教育次長

1 開会 教育長

○令和3年度第一回総合教育会議を開催します。

2 藤城村長挨拶

○教育委員の皆様と語る機会の一つとして、総合教育会議の場を迎えています。政策を掲げて村長になりました。その中に学校関係のこともある訳ですが、それを強引に進めるということではなく、委員の皆様にご検討いただいて「これはいいね」ということになれば積極的に進めていきたいと思ひますし、逆に教育委員会の方で例えば通学路に関して改善しなければならないこと等、私が預からなければと思ひています。これから村長部局と教育委員会が連携していくにあたり総合教育会議を定期的で開催していただいて、村のよりよい教育行政に向けて努力して参りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

3 協議 進行 藤城村長

(1) 令和3年度南箕輪村の教育について

<会議資料1>

※会議資料にて教育長より説明

- ・南箕輪村の教育について、目指す子どもの姿を軸に「学校教育」「社会教育」「家庭教育」「学校教育・社会教育・家庭教育」における教育委員会の営み

○村長

- ・教育委員の皆様在所管は学校教育だけでなく「社会教育・家庭教育の融合」を含めてということですか。

○教育長

- ・正直言って、教育長の任いただいたときに、教育委員会は学校のこと・子どものこと、という認識でしたが、社会教育・家庭教育も大事な柱としています。

○村長

- ・ICT教育の充実に向け、ICT支援員を多くお願ひしましたがどうですか？
ICT支援員を入れたくても人がいない現状があります。私はもともと都市部において「人がいない」ということは今までなかったので、切り替えてやっていかなければならないと思ひています。

○教育委員

- ・教員の働き方改革の中、ICT教育が入ってくることにより、教員の負担増

の感がある。支援員の方が入ることにより、その負担が軽減されると思います。

○村長

- ・町村会の会議で、ICT 支援員を入れたくても見つからず、県にお願いしているところもあるようです。

○教育長

- ・藤城村長が就任し、ICT 支援員を増員しようということで、今年度当初の 1 名から現在 3 名体制となっています。
- ・教職員の働き方改革の面で、統合型校務支援システムを導入している。ICT 支援員には、統合型校務支援システム活用においても、お力をいただいている。

○村長

- ・以前、議会の一般質問で不登校に関する質問があった。不登校の人数が意外と多いという印象を持ちましたが、ほかの自治体に比べて多い方でしょうか。

○教育長

- ・中学校では昨年度 34 名。今年度は現時点で 30 名を超えるのではないかと受け止めています。また、小学校において不登校の割合は他の自治体と比べて割合的に少なくはないと認識し、不登校は教育委員会として大きな課題と考えています。

○村長

- ・なかなか難しい問題で、中学 1 年生で多く中一ギャップといわれていることも承知しています。私の経験では小学校と中学校とは全然違って、中学校になると先輩から攻められるとかそのギャップを感じたことがあります。南小と中学校が近くにあるから併設型の小中一貫校の検討はどうですか。

○教育長

- ・教育課程の面でつながりを考えた時に、具体的に動けない面もあるのですが、例えば中学校の先生が小学校で授業をする授業交換とか、この後村長から話があると思いますが教科担任制等の動きができたらと思っております。関連しながら、村の中間教室・南箕輪小中学校の中間教室、心の相談員、社協が中心になって行っている困窮家庭の学習支援、民間施設等仕組みは整っていると思います。が、それだけでは苦しいのかなと思います。子どもたちの状況をどう見ていくのか、配慮を必要とする子どもたちが増えている印象をもちます。

教育委員

- 村が手を挙げ、困窮家庭の学習支援を進めている。今現在、我が子はやってくれないのという家庭もある。誰でもというわけにはいかない事業なので、該当しない家庭には「できない」と窓口の社協で伝えている。この事業のお蔭で何人か学校に戻れたり、高校に進学したりしている。新型コロナウイルス

ス感染症の関係で行事等が行えず、仲間との人間関係を構築していく難しさを感じてきている。新型コロナウイルス感染症の影響は大きいと思う。不登校になる子どもさんの状況を見ると、ゲームにはまっている。昼夜逆転。家にいても困らない。熱中してしまい親御さんがどうしたものかと考える時ははまり込んでいる状態となっている。

村長

○ゲームは、オンラインでつながるようになったので私も就職してしばらくの間は、朝3時頃までゲームをしてその後出勤するようなことがあった。あまりにもオンラインでのゲームが楽しくて。そして、これはまずいなと思ってやめた経験があります。ただ、ゲームの楽しさはある。

教育委員

○親自身もゲームの楽しさは感じていて、せめて家に帰ってきたらそれくらいやらせてという思いがある一方子どものもとも心配。

○小学校低学年、あるいは保育園時代からゲームを与えている場合がある。

○ゲームは1時間と家では約束していても「友達の家はもっとできるのに何でだ」ということもある。家の中で決まりを作るのだけれど実際難しい面がある。ゲームをダメとしたら、テレビの方向にいたり、言っても効かない現状がある。保育園の頃からスマホを渡す状況がある。情報機器に馴染むということとゲームのめり込むことの矛盾を感じている。

村長

○情報関係の産業は日本は強いので、小さい頃からそういった知識を持つことも必要という考えもあるので…。

教育長

○メディアリテラシーに関して、中学校が踏み込んでいる。前回、職員・保護者・地域向けの研修会を行ったが、同じ講師による生徒向けの授業が行われた。中学校では、ネット上での誹謗中傷の例もある。難しさもあると思うが、家庭との連携を大事にしていくとともに、生徒自身が考え、律してメディアと上手に付き合っていく力を大事に育てたい。

教育次長

○小学校低学年で、なりすましの書き込み例があった。悪意はない状況のようであるが、これを機に、子どもへの指導やパスワードについての検討を行う予定です。

村長

○ゲームは今どんどん新しいものが出る。一つのソフトでもアップデートされ、本当に楽しい。無料でできるものもあるし、大きなアップデートは有料となっている。体を動かさないのが心配。体を動かしてゲームをやればいいのだけれど。

教育委員

○親が知らない間に、料金の請求が来たりする。業者の利益が出るようにうま

くできている。e スポーツをどう考えるか…。対話ができなくなる可能性があるが、チームスポーツともいわれている。

小学校から中学に上がると部活動が始まり、子ども達の生活スタイルが変わる。時間の使い方を考える必然性が生じてくる。

村長

○ある程度やって、時間を無駄にしていると気付くしかないのか。自身、このままこの生活をしていたらダメになると思いましたけど。40・50歳になると、例えば、山登りや景色を楽しむ等ゲームとの距離の取り方が変わってくる状況もある。大人になって気づいてもしようがないか。

教育長

○課題は多い。

(2) コロナ禍での学校教育・社会教育の動きについて

教育長

○現在の新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているので、学校の教育活動は、例えば授業参観等コロナの感染拡大に配慮しながら、また社会教育においても成人式を予定している等、以前の状況に戻りつつある。

子どもたち・教職員が行っているチェックカード、本人に発熱等風症状がある場合や家族が同様の状態になる場合は、登校について医療の受診・診断によることを継続しています。

教育次長

○元旦初走りも、今の状況であれば行う予定。

村長

○(2)について何かありますか。

教育委員

○今話があった学校の対応で、家族兄弟関係のことについてですが、どういう状況でそういうのを止めるのか。子どもを休ませた時、仕事を休まなければならぬことや子どもの学習に関しての心配等、保護者として見通しが持てないでいる。

教育長

○今回のことについて、県の保健厚生課・学校医に相談をした。医療サイドでは、現在の対応をなくすことには、賛成しかねる。また、保健厚生課では、悩ましい状況であるが先が読めない新たなフェーズ・局面となっているという見解であった。今回中学校の保護者向けの便りには「当面」という言葉を用いている。

教育委員

○近隣市町村の状況も大事にしていきたい。

村長

○大きな切り替えのタイミングは、ワクチン・治療薬ができ5類に変わった時ではないか。治療薬が無い中で多分舵は切れないのではないか。

教育委員

○発信する機会があればお願いしたい。

教育長

○子どもたちは、昨年マスク・手洗いの励行などにより、いろいろな感染症にならないできている。昨年インフルエンザのり患も非常に少ない

状況であった。ただ、免疫を考えた時に、感染症へのリスクはあるのではないかと考える。

村長

○専門家の話では、年末年始に第6波という話も出ている。あまりいい流れではない。油断はできないなと思う。

(3) 令和2・3年度成人式について

※教育次長より会議資料にて、令和2・3年度)の成人式について説明

村長

○成人式についてはよろしいでしょうか。

教育委員

※了解

(4) 学校給食センターについて

教育次長

○設計業者が決まり、学校給食センターの建設に向けて動いてきている。今後、基本設計を決めていく段階で、お示ししていきたい。また、地元説明会を今後も行っていく予定。ただ、若干地盤が悪いとか工事費が高騰してきていること等があり、今後村と相談しながら進めていきたい。

村長

○学校給食センターについては、村全体の流れの中で大芝高原の赤松が早ければここ10年で枯れてしまうという調査結果が出ています。赤松は今1万3千本ありますが、先人の福澤百十先生たちが将来学校の建設に役立てたいと植林しました。世界全体でもカーボンニュートラルの中で成熟した木は二酸化炭素の吸収量が落ち、成長している木の方が二酸化炭素の吸収量が多い。それ故、成熟した赤松は大径木になる前に材として活用していくことが、カーボンニュートラルにもプラスになるだろうということで、令和6年に南箕輪村が生誕150周年を迎えるので、その記念事業の中で先人が植えた木材を活用していく。今までは赤松は一切切らないことで来ていたが、枯れてしまうので今舵を切り、願わくば150周年の時に200年につなぐ50年構想の形で今南箕輪村にある森林の循環サイクルを作っていく。植林をして50年経つといい木が育つので、そのサイクルを作っていくのが大切と考えている。その構想の中で、学校給食センターのエントランスホールとか2階の会議室とかで村の赤松を使えるところで使っていくことはどうだろう

か、と今後提案させていただこうと考えています。今年の冬、かなり伐採しますので1年かけて乾燥しそれを活用していく。150周年の一環としてやっていきたいという思いがあります。形になりましたら皆様と相談してまいります。

学校給食センターにつきまして何かありますか。

教育委員

○地域住民の方から何か伝わってきていますか。

教育次長

○説明会において、中学校の第2グラウンドができた時に埃がくるということで、砂防ネットを付けた経緯があります。ので、埃対策。あと匂いになるべく発生しないように。明かりがあるので虫が寄ってくる、あと工事中の交通量が増えたり、配送車が通学路を横切ったりするので、子どもの安全に配慮して欲しい、ということが出されました。

教育長

○全体的には、説明会が遅れたのでそれに対して苦言をいただきましたが、参加の皆様から建設に向けてご理解と後押しをいただいたと思っております。今後、地域の方への説明を丁寧にしながら進めて参ります。

村長

○村としては、南部小学校建設以来の大型事業となる。責任が重い。

(5) 子どもたち・地域の状況について

○教育委員

- ・コロナ禍において不登校の子どもたちや家庭環境的な面でも親御さんと学校等とのトラブルが増えてきている。どうケアしていけばよいか、どこまで踏み込めるのか。体罰等含め課題と感じている。
- ・コロナ禍の中現在の状態を踏まえ、地域では11月から今までのような活動を配慮しながら行うようになっている。
- ・PCR検査キッドは今薬局でも売っているが、信頼性はどうかと思うところがある。村として、今後PCR検査がもっと早く安く受けることができれば良いと思う。
- ・簡易キッドは、陽性の判断には有効と考えるが、陰性になっても医療受診となる。
- ・ICT環境が整えられ、ありがたい。医療的ケアを必要とするお子さんへの看護師配置はありがたいと思う。来年度入学の医療的ケアを必要とするお子さんを含め、学校として全ての子が互いに学び合うとても良い機会となる。子育て真っ最中の村長さんです。私たちには見えないことが見えるのではないかと思います。
- ・区長の立場もあるのですが、地域での子ども達の育ちにもっと協力できればと思いつながりの今。本日この後授業参観が予定されているが、各クラスが児童でいっぱい状態。地域も子どもが増え、この子たちに何かできることが

あればと考えているが、地区の小学校PTA会長とも予算を渡すだけでなかなか連携も取れない面がある。地域で子どもにもっと関わることができればと思っている。

(6) その他

村長

○私から主に4点について資料を用意させていただきました。

- ① (村長) 八街市の事故を受け、国・県の動きがあるので村としても今やることのできる対策を行いたいと考えている。通学路の安全対策について何かありましたら願います。

教育長

※通学路安全推進協議会の動きにつて資料を基に説明

通学路安全推進協議会が動き出し、32ヶ所の危険個所の対策に向け優先順位を参考に関係機関・部署で具体的に動き出している。

村長

○となると、No22(南林ハイツ前)が村道で緊急度が一番高いということになりますね。

- ② (村長) 登山への医師随行について、先日上伊那の市町村長会の中で検討して欲しい、と話題になりましたので議題にしました。伊那市等消防署員が登山に同行しているようですが、本村はどうか。

教育長

○中学校では、西駒登山に医師・看護師、経ヶ岳も医師・看護師が同行しています。西駒登山には消防の方も同行しAEDを担いでいってくださったり、緊急時のヘリ連絡等の対応に協力をいただいたりすることができるようになっていきます。

- ③ (村長) 困窮世帯向けになりますが、大学受験料、塾への補助について教育委員の皆様にも考えていただきたく議題にしました。村としても検討してよいと思っております。本日結論は出ません。予算については考えていきたい。

※(村長) 東京都の例について資料を基に説明

教育委員会でも今後の検討課題としていただいたい。

- ④ (村長) 最後4番目ですが、小学校専科教員配置について願います。専科教員については、音楽・図画工作・理科・体育等先日中央審議会が方向を出しましたが、私の今までの経験では小学校体育は、教える先生によって全くやらない先生もいればしっかりやる先生もいる。教科によっては赤本があるが体育はないので、教えるのに大変な教科だと思っている。そういった中で、小学校に村費で体育の専科教員を配置することで担任と二人で授業をマネージメントすることで楽になりますし、担任が体育の教科担任から学ぶことも多いので良い取組みではないかと思っています。

※(村長) 資料にて文科省実践校の成果について説明

運動が得意でない子が、体育の専科教員を配置することによって救われていくのではないかと考えます。私は、体育は知徳体全部学ぶことができる教科と考えています。まだまだ伸びしろがある教科なので強化していくのがいいと考えます。あくまでも進めるのは教育委員会なので是非検討していただけないかというお願いで議題とさせていただきました。

教育長

○国では令和4年度から小学校高学年に教科担任制を導入する動きがあります。現時点では、まだ具体化していない。村長さんが話されたように村費で導入していくことになると思うと話は違ってくると思います。県の動きがどうなるか、その中に体育専科の話も出てくると思っています。村長から村費で体育専科ということをお伝えいただきました。委員の皆様どうですか。

教育委員

○数学の教師をしていて小学校・中学校に勤務しましたが、やはり中学校で小学校とのギャップがあって苦労している状況があった。小学校で教科担任制を、と前から思い教育委員会でも話題にし、校長とも学年内での教科担任制等について相談してきたが、理科・音楽・家庭科・英語を除いて、実現できないでいる。体育は初めて聞いた方がいいなと思っている。

○先日参観した小学校では、学年内の授業交換、水泳の時間を外部講師が授業を行う形態であった。

村長

○私が描いているのは、1時間目3年1組、2時間目3年2組というように体育専科として体育だけを教える形態。

教育長

○高学年が専科の位置づけとしては多いわけですが、体育の時間をどう組むか。また、村で力を入れている運動遊びとのつながりをだいにしていけるとすごくいいと思う。中学校の体育の先生との連携を含め、授業交換もいと思う。

教育委員

○1クラス30人に教える「体育」は大変だと思う。教員も体育の中でも得手不得手がある。

○南部小と南小2校あるが、学年を絞っていかなければ…。

村長

○二人配置を描いているが。業務委託の形で試行的に進めながら皆さんに観ていただいて、いいなと思ったら本格的に行う等段階的に進めていくことができればと思う。

教育長

○学校の現状と重ねながら検討していきたいと考えます。

村長

○その他、何かありましたらお願いします。

※特になし

4 閉会 教育長

○以上で令和3年度第一回総合教育会議を閉じます。
ありがとうございました。

委員会での懸案事項	調査回答

出席委員：清水道直 教育長職務代理者 出羽澤和子 委員 薄田東 委員
田中博美 委員

委員以外出席者：村 長 藤城 栄文
教育長 清水 閣成
教育次長 清水 勝宏

議題等：別紙会議次第による